

令和 7 年度博物館職員等在外派遣事業実施報告



派遣先：ドバイ（アラブ首長国連邦）

派遣期間：令和 7 年11月10日～11月16日

研修目的：ICOMドバイ大会参加

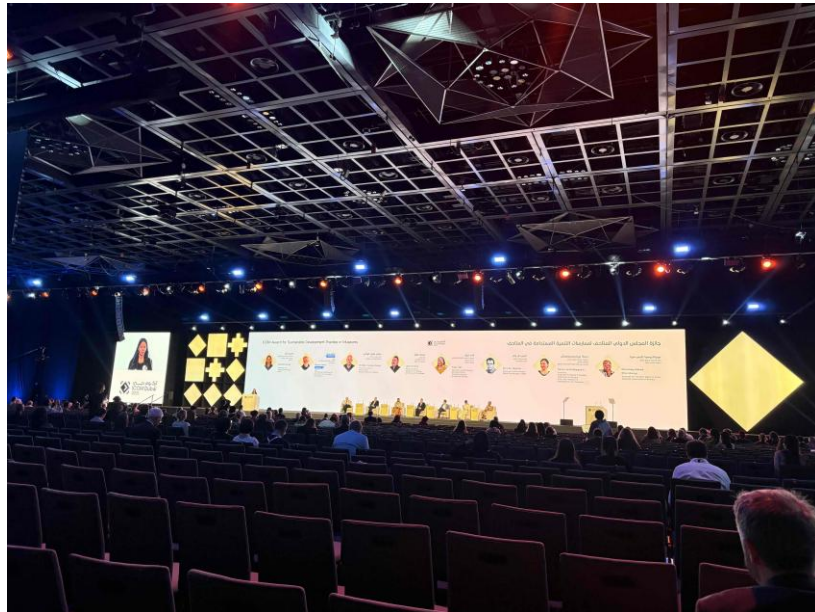
ICMS（博物館セキュリティ国際委員会）での発表

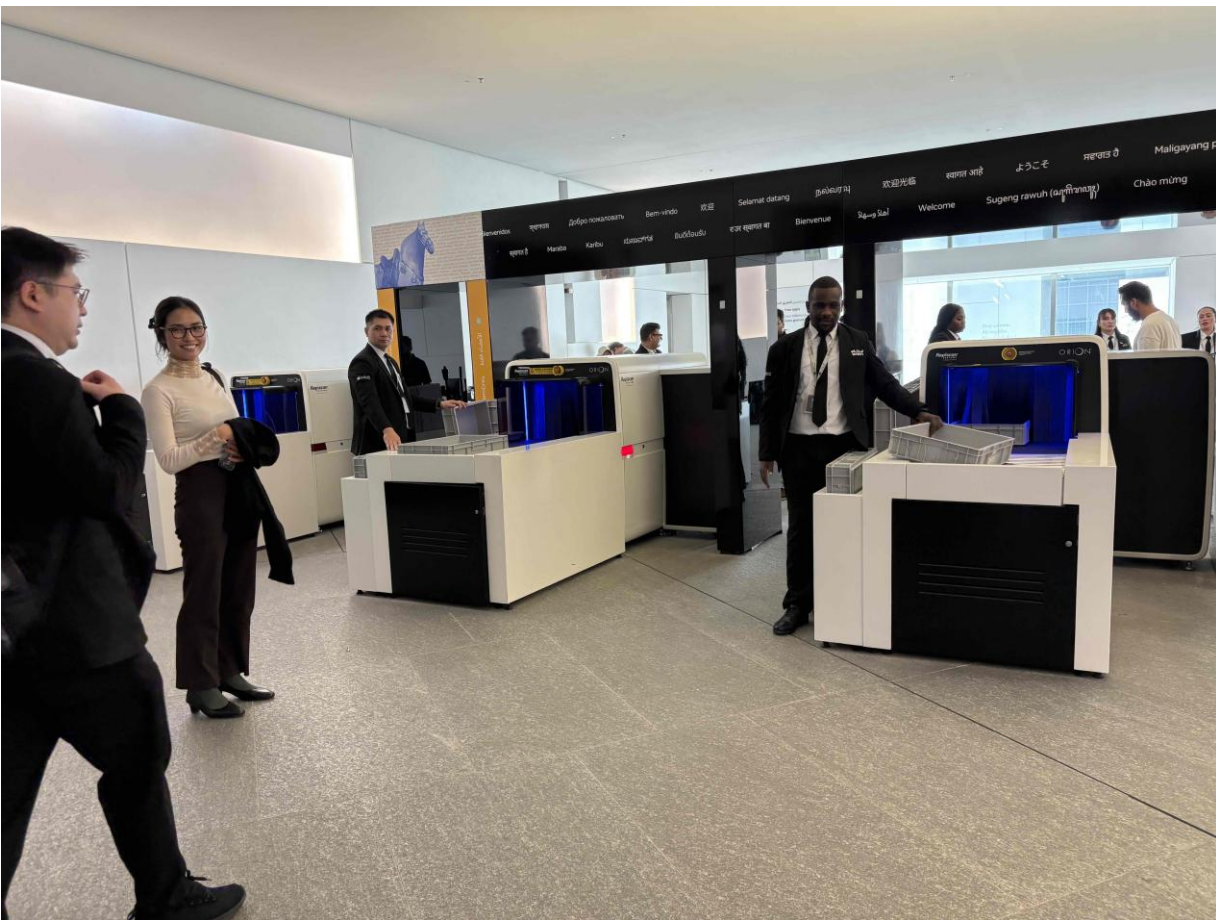
大阪市立美術館

内藤 栄

主な研修日程

- (11月11日) ICMS日本委員会の清水由朗氏、杉浦智氏らと日程確認。
アブダビ・ルーブル美術館訪問
- (11月12日) ICOM総会出席、ICMS例会参加
- (11月13日) 企業ブース見学、ICMS例会参加
- (11月14日) ICOM新代表、委員の選挙結果報告、閉会式
- (11月15日) ICMS例会で発表





エントランスのエックス線手荷物検査
(アブダビ・ルーブル美術館)



クローク（アブダビ・ルーブル美術館）

ICMS例会

【自然災害】

▼Ana Labrador and Hiromi Maeda

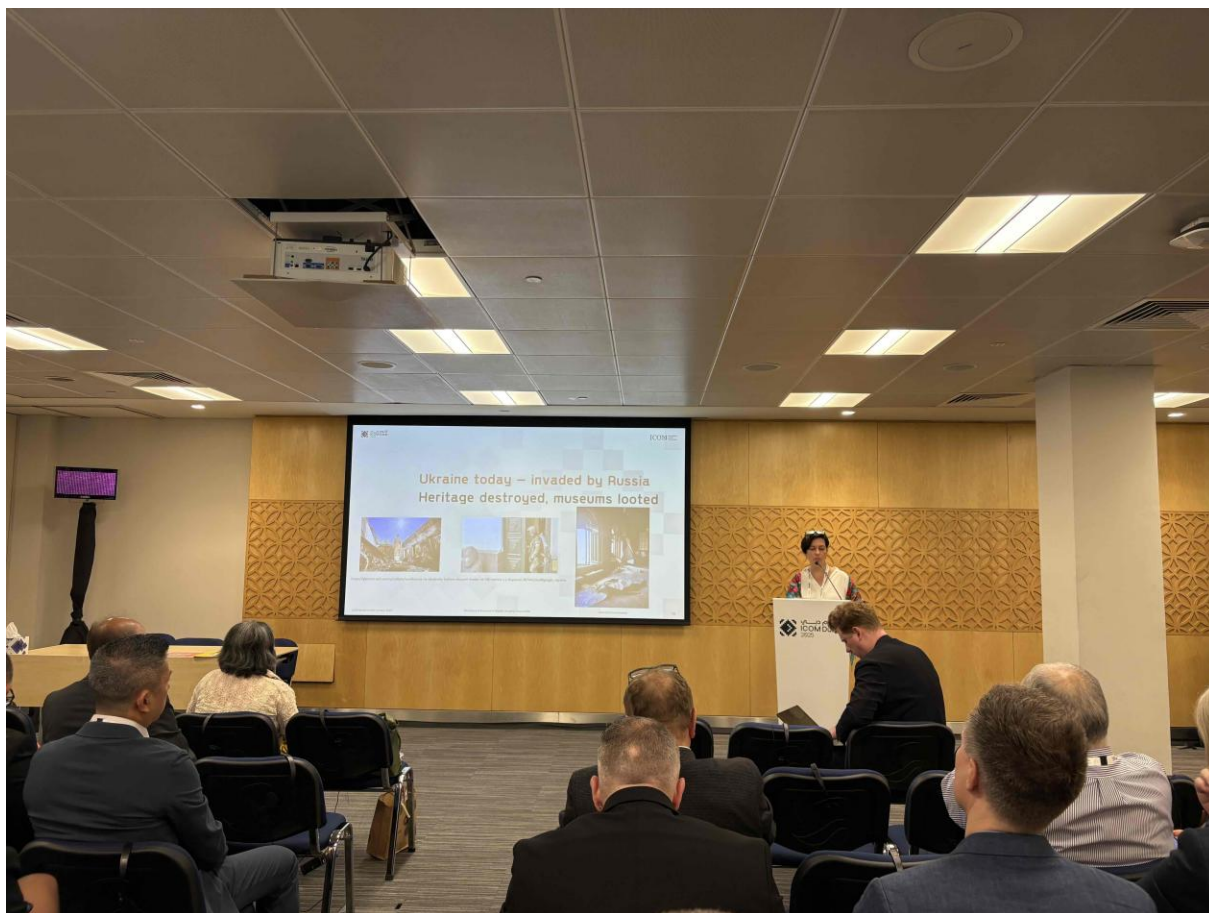
テーマ：Cultural contexts of disaster preparedness comparing the experience of the Philippines and Japan.

内容(要約)：日本とフィリピンの災害準備に焦点を当てたプレゼンテーション。両国は太平洋火山帯に位置し、自然災害に脆弱。日本は防災を日常生活に組み込み、コミュニティ意識が高い。フィリピンは個人の resilience に依存し、文化的相互扶助を重視。文化遺産保護には、地域コミュニティの積極的な参加が不可欠であることを強調している。

▼内藤栄

テーマ：Visitors are fundamentally good!

内容(要約)：日本の博物館における自然災害対策を解説。地震、津波、豪雨などのリスクに対し、耐震技術、文化財レスキュー体制、盗難防止策を紹介。地域コミュニティと連携し、高校生を巻き込んだ文化財保護の取り組みについて発表。



ICMS例会

【環境問題】

▼ビクター桑原

テーマ：Resilience at the Intersection of Science and Security: An Oceanographer's Perspective on Integrating Climate Monitoring in Museums

内容(要約)：海洋学者の視点から、気候変動が博物館のセキュリティに与える影響を分析。環境モニタリングと博物館セキュリティの統合を提案し、博物館を気候変動観測所として再定義する可能性を探求。

▼Betty Karanja

テーマ："Building Knowledge and Networks for Emergencies: Managing Floods, Fires and Theft"

内容(要約)：アフリカの博物館における文化遺産リスク管理を分析。紛争、気候変動、インフラ不足などの課題を指摘。地域間協力、緊急対応計画、デジタル化、コミュニティの関与を通じて、文化遺産の保護と回復力強化を提案。

▼Alke Dohrmann and Almut Siegel
テーマ：Museum Disaster Preparedness

内容(要約)：ドイツの文化財保護ネットワークと緊急時対応システムを紹介。気候変動と武力紛争に対する文化遺産の脆弱性を分析し、リスク管理ツールや地域ネットワークの重要性を強調。文化財保護の包括的アプローチを提案。

【戦争被害】

▼Paulina Florjanowicz

テーマ：Recommendations for Museums when preparing for Crisis and War.

内容(要約)：ウクライナ侵攻を契機に、文化遺産の危機管理ガイドラインを作成。博物館の危機対応には、法律理解、リスク分析、危機管理チームの適切な編成が重要。evacuationよりも現地保護を重視し、柔軟な意思決定、デジタル記録、スタッフ保護を強調。文化遺産の保護は単なる物理的な避難ではなく、総合的なアプローチが必要と主張。

【デジタル面のセキュリティ】

▼Kim covent

テーマ：“A blended risk framework for the digital tourist in a hybrid museum world”

内容(要約)：デジタル観光客のリスクと機会を分析。オンライン文化遺産プラットフォームの可能性と潜在的な脅威を探求。デジタル空間における文化遺産の保護、サイバーセキュリティ、デジタル観光客の安全確保の重要性を指摘。

【セキュリティと教育】

▼Kim Covent

テーマ："Playful protection: gamifying museum security to boost youth engagement and diversify cultural safeguarding"

内容(要約)：ベルギーで、12～14歳の若者を対象に、博物館セキュリティをテーマにしたボードゲームを実施。攻撃側と防衛側に分かれ、アートの盗難シナリオをシミュレーション。ゲームを通じて、文化財保護の重要性と複雑さを学ぶ教育的アプローチを紹介

【総合的なテーマ】

▼Vernon Rapley

テーマ：Risk Mangement Workshop

内容(要約)：文化遺産のリスク管理において、10の劣化要因と6つの包囲層を分析し、客観的な評価方法を提案。発生頻度、影響の大きさ、価値の損失を科学的に評価し、感情に頼らない合理的なアプローチを重視。各文化遺産の特性に応じて、柔軟にリスク管理戦略を調整することの重要性を強調している。

▼Jahangir Hussain

テーマ：Museum Disaster Preparedness: Bangladesh Perspective

内容(要約)：

バングラデシュの約200の博物館における災害リスク管理を分析。自然災害と人為的災害の両方に対応するため、セキュリティ対策、技術導入、緊急対応計画を検討。アンケート調査に基づき、現状の課題と改善点を提示。デジタル技術、訓練、地域機関との連携の重要性を強調し、博物館の防災能力向上を目指している。

▼清水由朗

テーマ：Opening the Museum Doors Beyond Division: -
Hospitality Under Pressure - A Warm Welcome in a Divided
Age

内容(要約)：「分断」や「破壊衝動」といった昨今の社会状況下のもと、東京富士美術館にて開催されてきた「大使館の美術展」の紹介を中心とした、文化交流の取り組みについての発表

▼荻田伸司

テーマ：Balancing Security and Accessibility in Museum
Lending Practices

内容(要約)：作品貸出時におけるミュージアムセキュリティとアクセシビリティの両立や、日本においてミュージアムセキュリティを重視することによる新たな課題やジレンマについて東京富士美術館の事例をもとに紹介

▼大塚直美

テーマ：Ikeda's Philosophy of Art: Empowering Youth in the Preservation of Culture and the Environment

内容(要約)：気候変動と文化遺産保護について論じ、アートを通して地球環境問題に取り組む重要性を強調。東京富士美術館の活動を例に、対話と芸術による平和構築、環境意識の向上を訴えた。

▼ニコラオス・ドカリス

テーマ：Beyond the Gallery: Adapting Public Venue Security for Museums

内容(要約)：公共施設のセキュリティ戦略を博物館に応用。技術とヒューマンエレメントの重要性を強調し、セキュリティは単なる警備ではなく、来館者との対話と信頼関係構築が鍵であると主張。多様な公共空間のリスク管理を詳細に解説